

## 地域通貨「リアス」

東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県宮古市の商店街では、地域通貨「リアス」を発行するそうです。

震災後、地元以外で購入された物資が支援物資として大量に被災地に入ったため、地元商店では物が売れない、あるいは売り上げが落ちるといった影響が出ていました。今回の地域通貨「リアス」は、通用範囲が被災地限定ですので、「リアス」を購入した人は宮古市の商店街でそれを使うこととなりますので、被災地商店街の支援に繋がることが期待されています。また、被災地以外の方が「リアス」を購入し被災者に贈れば、被災者に対して寄附金と同様の支援を行うことにもなります。

地域通貨「リアス」は、「500リアス」と「1000リアス」の2種類で、それぞれ550円、1100円で販売する予定だそうです。1リアスは1円の換算ですので、「1000リアス」で1000円相当の買い物ができます。なお、地域通貨の表示額と購入額との差額は発行経費とされています。

「リアス」の使い方を見ると、これまで各地域の商店街などで発行され、活用されてきた「地域限定型のプレミアム付き商品券」と同じものではないかと思われる。「地域限定型のプレミアム付き商品券」の場合は、通用は地域限定だけれども、例えば1000円の物が900円で買えるといったプレミアムが付くことで、商品券購入のインセンティブを働かせようとしています。が、「リアス」の場合は、地域通貨の発行経費を購入者が負担することで被災地支援に繋がようとしているのだと思います。

ところで、一体、地域通貨とはどういうものなのでしょう。勿論、地域通貨は法定通貨ではありませんが、一応の定義をすれば「特定の地域あるいはコミュニティの中で、法定通貨と同様に一定の価値あるものとして発行され、使用される」ものをいいます。

地域通貨の形態は大きく分けて、①紙幣発行型、②通帳記入型、③小切手型、④タイムダラー型の4つがあるといわれています。

まず、紙幣発行型は、お札を実際に刷って流通させるものですが、現行法上、問題が多いようです。

次に、通帳記入型ですが、会員が通帳を持って、その通帳に物やサービスを売ったり買ったりした場合の動きを記入することにより、残高が把握できるというものです。

次に、小切手型というのは、紙幣発行型に近いのですが、小切手型の場合には持ち主が裏書きすることになります。従って、流通すればする程裏書きが増え、小切手の信用が増すとされています。

最後に、タイムダラー型ですが、これは例えば、誰かに30分の仕事をしていただいたとき、ある単位の地域通貨を払います。その通貨を受け取った人が別の人に仕事を頼んだ場合、その時間に応じた地域通貨を払うというもので、地域通貨を通して地域の人々が結び付いていこうというものです。栗山町のエコマネーは、この中に入るでしょう。

「リアス」は、今のところ地域限定型の商品券という機能しか想定されていないのかもしれませんが、今後、地域の中で、物だけではなく、病院への送迎や高齢者支援、子どもの保育などの分野にも地域通貨が流通し、活用されるようになれば、人と人を繋ぐ大きな力になるでしょうし、地域コミュニティの再生の切り札になるかも知れません。（塾頭 吉田 洋一）